

(一社)日本自動車リサイクル研究所 ＝取組み内容の紹介＝

2017年6月16日
JVR事務局

リリース内容①

「日本自動車リサイクル研究所」設立の背景

現在、日本の自動車リサイクル業界には、自動車リサイクルに係る規格化、認証書の発行、環境負荷数値の公表、優良事業者の関わる制度など、中立性、公平性が求められる機関がありません。その中でも日本ELVリサイクル機構が近い立ち位置にはいますが、会員サービスに活動主体を置く組織ゆえに、第三者機関として認められることは難しいと考えます。

そこで、検討を進めてきた結果、中立機能を持つ機関として「日本自動車リサイクル研究所」を設立させるにいたしました。

法人運営は、少数、コンパクト、低コストで「リサイクル産業として日本で初の中立性の高い研究機関」を目指します。これは、自動車リサイクル法の合同審議会でも期待されており、自動車リサイクル産業の発展を推進する役目を担っています。

事業概要一覧

1. 自動車リサイクル高度化の研究
2. 自動車リサイクル資源循環の研究
3. 自動車リサイクル規格化の研究
4. 自動車リサイクル海外普及の研究
5. 自動車リサイクル講演会、研修会の開催や書籍出版など

リリース内容②

「研究活動について」

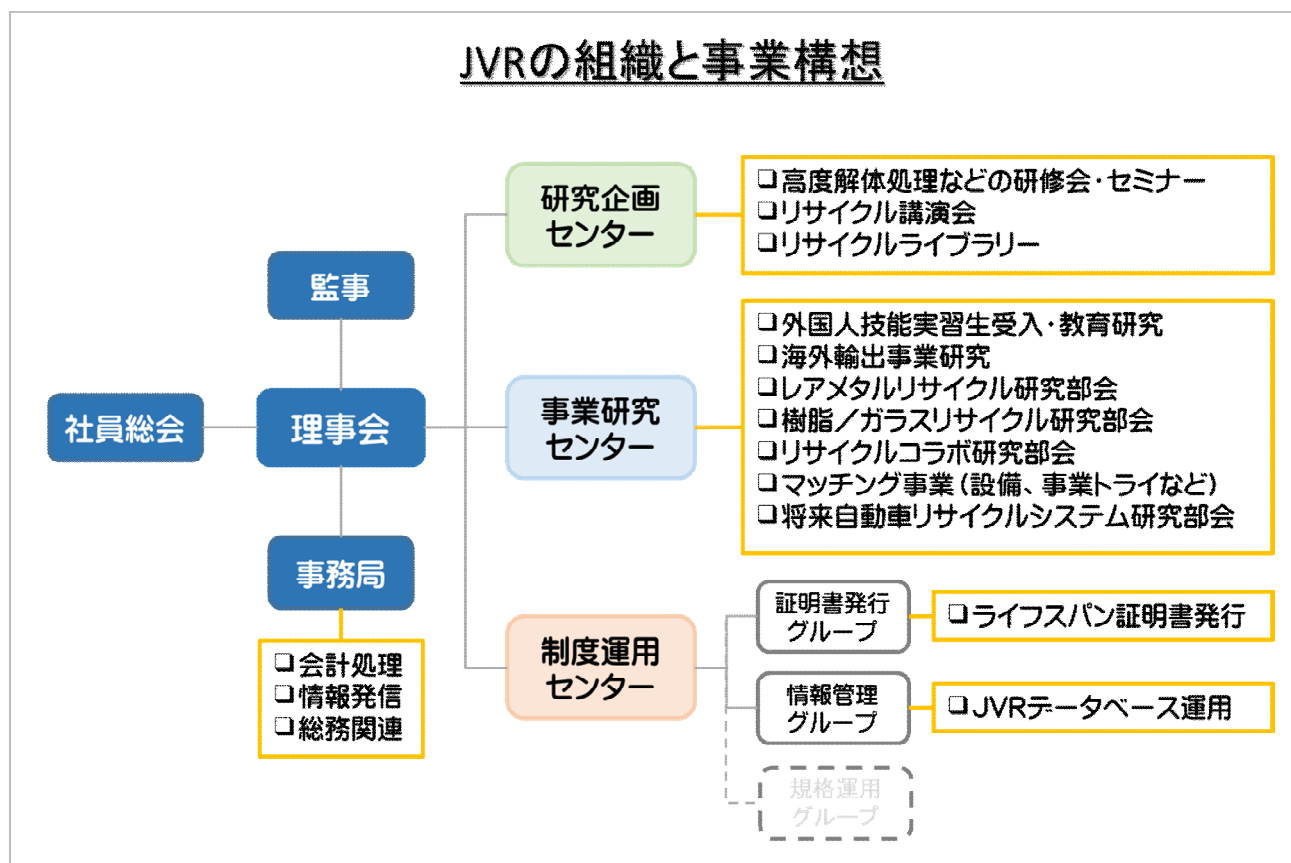
- ❑ 幅広くリサイクル事業者との相互補完を行い、各種リサイクル技術・制度の研究や運営事業を行います。
- ❑ リサイクルの専門家、学識経験者を招聘した環境リサイクル戦略の意見募集を行い、シンポジウムを開催しつつ戦略策定を行い社会に提案します。
- ❑ 現状まだ不整備である各種リサイクルの規格化推進を行い、優良事業者などの認定制度に向けた研究や、将来、第三者機関としての認証が行えるような取り組みをします。
- ❑ 外国人技能実習生等の教育及び受け入れ等の研究を行い、国際協力も含めた海外展開も視野に入れた取り組みを行います。
- ❑ 経済・社会環境の変化に即応したセミナーや講演会などを開催し、方向性の研究や参加者との情報交換など、情報媒体を通じて意見を社会に発信します。

目的

当法人は、自動車リサイクルに関する調査・研究及びその成果の提供等を行うことにより、自動車リサイクル産業の資質の向上を図り、広く社会に貢献することを目的とする。

(1)	自動車リサイクルに係る各種制度の研究及び運営事業
(2)	自動車リサイクルに係る規格の研究及び運営事業
(3)	各種自動車リサイクル技術の事業研究
(4)	外国人技能実習生等の教育及び受け入れ等の研究事業
(5)	自動車リサイクルに係る国際協力も含めた海外展開の事業研究
(6)	自動車リサイクルに係る研修、講演会、講習会等の企画、運営、管理、受託及び講師の紹介、派遣並びに人材育成、教育事業
(7)	出版物及びデジタルコンテンツ等の企画、製作、翻訳、編集及び販売事業

組織・運営



事業構想①

事業名	構想	事業案
研究企画センター事業		
研修会・セミナー事業	次世代車等の情報・解体についての知識、技術の提供	☐ ハイブリッド・電気自動車解体作業セミナー(案)
講演会事業	自動車リサイクルに係る多方面からの情報提供	☐ (案)DfeRIについての考察 ☐ (案)メーカーから見たリサイクル業界
リサイクル資料提供事業	大学の先生の論文、文献 企業の研究発表資料 行政の報告書などをwebを用いて提供する	☐ JVR Libraryの構築
事業研究センター事業		
研究部会活動事業	会員を対象に希望者で研究会を立上げ活動する	☐ 将来の自動車リサイクルシステム研究部会(案) ☐ レアメタルリサイクル研究部会(案) ☐ 省エネルギー解体技術研究部会(案)
	METI/MOEの受託研究の実施	☐ 樹脂／ガラスリサイクル研究部会(案) ☐ 他産業リサイクルとのコラボ研究(案)
	自動車リサイクル事業の海外進出を目指した調査、研究の実施	☐ 海外の自動車リサイクル産業の調査 ☐ JICAとの連携による海外事業調査(スリランカでの調査が進行中) ☐ 海外輸出事業(リユース部品など)の研究(案)

事業構想②

事業名	構想	事業案
事業研究センター事業		
マッチング事業	設備、システムなど単独では出来ない研究を、業者マッチングをして実行可能にする	☐ 樹脂の破砕テストをしたい ⇒破砕設備を活用したい事業者 ☐ 新型車の解体実験をしたい ⇒実験目的に合う設備を保有している事業者 ☐ 電炉投入スクラップ実験をしたい ⇒目的に応じたスクラップの入手
教育活動事業	リサイクルに関連する各種教育への取り組みを実施	☐ 外国人技能実習生の受け入れ教育の研究(案) ☐ 教材の製作
制度運用センター事業		
証明書等発行事業	リサイクル事業に必要な証明書を発行する	☐ ライフスパン証明書の発行
各種認定事業	優良事業者の認定を行う	☐ 優良事業者認定要件の調整・整備の研究(案)
各種規格運用事業	規格の定常的な運用を行う	☐ リユース部品のラベリングJISの運用(案)

事業内容紹介

現在取組みを開始した事業の一部を紹介します

【JVRセミナー内容の紹介】

- 「迫りつつある業界再編—次世代自動車のリサイクルされる時—」
- 「低圧電気取扱特別教育」
- 「巻上げ機(ウインチ運転者)取扱特別教育」

【研究部会の紹介】

- 「輸出リサイクル部品のラベリング研究」
- 「メタル触媒リサイクル研究」



一般社団法人日本自動車リサイクル研究所

JVR セミナー

「迫りつつある業界再編」 — 次世代自動車のリサイクルされる時 —

セミナー内容

[座学研修]

自動車業界の動向を基に自動車リサイクルにおける様々な変化を予測しつつ、今後発生する次世代自動車の解体作業時の注意点と商品化のポイントについて研修します。

- 最新車体の構造と解体作業時のポイント
HV や EV などのエコカーや自動ブレーキなどの安全装置のついた自動車、樹脂やアルミ、カーボンなど新素材を使用した次世代自動車の解体作業の注意点などを解説します。
- 解体作業の安全確保と労働安全衛生法の対応
ニッケル水素やリチウムイオンなどの高電圧バッテリーの取扱いや感電事故防止対策、エアバッグの展開作業、その他法令で定められた作業手順などを解説します。

JVR セミナー

「低圧電気取扱特別教育」

セミナー内容

[労働安全衛生規則 特別教育]

ハイブリッド自動車、電気自動車など電動系車輛の解体作業に必須の研修です。研修終了後に、終了証を発行します。18 歳以上が受講対象となります。

- 学科
 - ・低圧の電気に関する基礎知識(1 時間)
 - ・低圧の電気設備に関する基礎知識(2 時間)
 - ・低圧用の安全作業用具に関する基礎知識(1 時間)
 - ・低圧の活線作業及び活線近接作業の方法(2 時間)
 - ・関係法令(1 時間)
- 実技
 - ・低圧の活線作業及び活線近接作業の方法(1 時間)

JVR セミナー

「巻上げ機(ウインチ運転者)取扱特別教育」

セミナー内容

[労働安全衛生規則 特別教育]

労働安全衛生法に基づき、巻上げ機(ウインチ)の取り扱い者に必須の研修です。研修終了後に、終了証を発行します。18 歳以上が受講対象となります。

- 学科
 - ・巻上げ機に関する知識(3 時間)
 - ・巻上げ機の運転に必要な一般的事項に関する知識(2 時間)
 - ・関係法令(1 時間)
- 実技
 - ・巻上げ機の運転(3 時間)
 - ・荷掛け及び合図(1 時間)

輸出リサイクル部品のラベリング研究

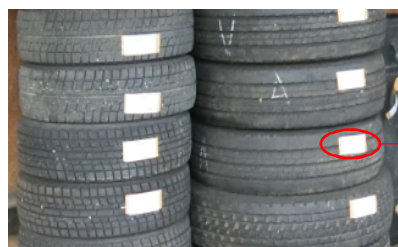
研究ポイント	☐ リサイクル部品輸出時のラベル記載項目の共通化を図る ☐ 国内輸出事業者のポジショニングを強化する
目的	輸出リサイクル部品の『共通表示項目を整備』することにより、現在、海外バイヤー主体で取引されている『輸出リサイクル部品売買』に対するイニシアティブを確保する
背景	■現在のリサイクル部品輸出時の品質チェックは、多くの場合業界のヤードに滞在しているバイヤーが行うか、ショッピングバイヤーと呼ばれる人たちが、業界のヤードに来社して品質チェックを行っている。 ■したがって、輸出時の品質状態の表示に関する問題は、バイヤーの手に委ねられていて、各国に存在するユーザーは、バイヤーの表示方法に依存されているのが現状である。 そのため、各国のユーザーは、日本から輸出されるリサイクルパーツの表示方法が正しいのかどうかは、知ることができない。 ■日本国内で販売されるリサイクルパーツに関する品質表示は、多くの議論がされているが、海外輸出に関することは、一部の業者の間では、議論されているが統一性がまったくないのが現状である。 ■実態は、中間ブローカーであるバイヤーの良し悪しで、販売金額や需要の増減が決まる。リサイクルパーツの海外輸出の需要と供給を一層拡大することは、国内マーケットを拡大する以上にスケールメリットが見込めるので、この問題を、業界の枠を越えて研究する必要がある。
構想	【ラベル表示項目】 1.生産者名 2.車体番号 3.走行距離（誤差があるので可能な限り必要、特に先進国では重要視） 4.外観や内部に関する客観的な情報 5.製造年月日 6.車名および車体形式、など 【取引システム】 1.インターネット利用を前提に、ラベル及びこれに対応できる画像等を併用することによって、価値を創出。
部会構成	・輸出リサイクル部品生産解体事業者⇒自動車解体業者（主に首都圏からテスト研究する） ・リサイクル部品輸出事業者⇒首都圏の輸出シッパー（ショッピングバイヤーも検討する） ・ネットシステム&eコマースを構築できる事業者 ・自動車リサイクルパーツの国際流通関連の学識経験者 ・コーディネーター

輸出リサイクル部品のラベリング研究構想

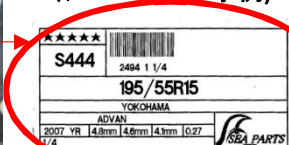
現状



ドライブシャフトに付けられたラベル (シーパーツの事例)



タイヤに付けられたラベル (シーパーツの事例)



基本の考え方

- ラベルに《最小限表示する内容》を統一
- +αの表示および表示方法・媒体などは自由

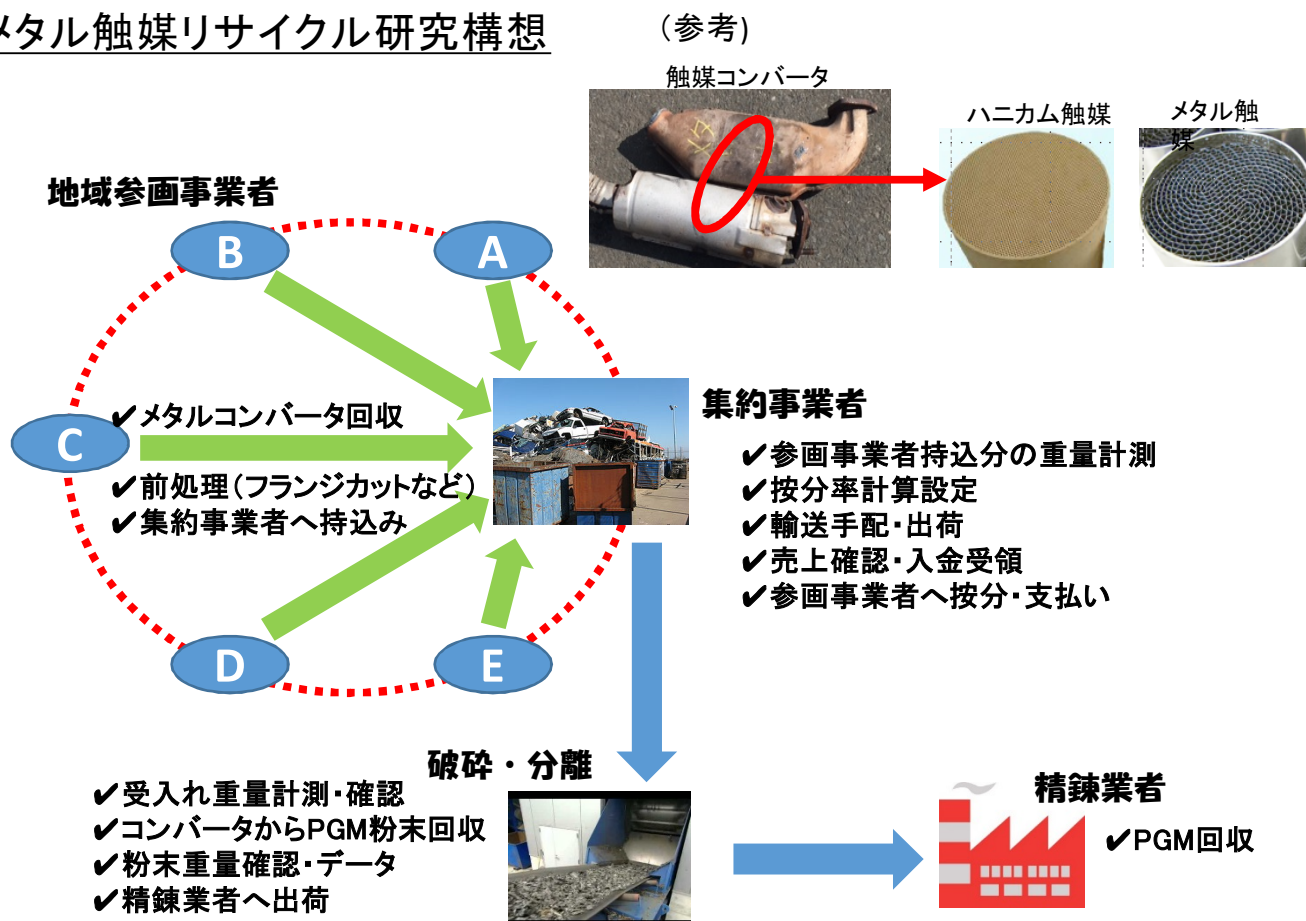
例

- ✓生産者名 ✓車体番号 ✓走行距離
- ✓製造年月日 ✓車名などの基本情報
- および
- ✓外観や内部の状態に関する客観的情報

メタル触媒リサイクル研究部会

研究ポイント	☐ 『発生量の少ないメタル触媒コンバーターの高効率商流』の研究 ☐ 『メタル触媒コンバーターからの貴金属回収技術の効率向上』の開発
目的	使用済自動車から回収したメタル触媒コンバーターからの高効率な貴金属資源リサイクル事業を確立する
背景	✓使用済車から回収した、部品および素材の一つ一つの価値を高めて収益アップを図る時代に突入 ✓触媒コンバーターは、個買い取引から貴金属分析取引へと価値を高める方向に動きつつある ✓しかし、貴金属分析取引は、現在の商流では取引完了まで長期の日数を要する(4~6ヶ月) ✓そして、貴金属分析取引は、1ロット纏まった数量が必要であり取引までに時間と保管場所が必要となる ✓触媒コンバーターからのメタルハニカムの取り出しも、時間と手間がかかり収益が減ってしまう
構想	【対象スクラップ】 1.触媒コンバーター(特に貴金属回収が困難なメタルハニカムをターゲット) 2.物流の効率を上げることを目的に、「箱付きECU」も回収対象とする 【高効率商流&回収技術】 1.MARCの破碎設備を活用して、触媒コンバーターから貴金属粉を回収する技術を応用する 2.ロットを纏めるための、参画事業者からの回収手法を研究する 3.物流および処理効率を上げるための、触媒コンバーターの前処理技術を開発する 4.物流コスト低減手法を研究する(箱付きECUの混載や複数拠点回収など)
部会構成	・解体事業者⇒対象部品を使用済車から効率よく回収&前処理 ・回収拠点事業者(解体事業者)⇒参画解体事業者から触媒コンバーターを回収⇒束ね⇒出荷 ・再資源化前処理事業者⇒MARCコーポレーション(破碎設備活用) ・物流業者⇒回収拠点事業者(解体事業者)~再資源化前処理事業者(MARC)の物流 ・コーディネーター⇒事務局or商社(ホンダトレーディング)

メタル触媒リサイクル研究構想



ご清聴ありがとうございました。
今後ともよろしくお願いいたします。

【JVR連絡先】

(一社)日本自動車リサイクル研究所
TEL: 03-6261-2046／FAX: 03-6261-2047
Email: info@jvr.tokyo
HP: <http://jvr.tokyo>